



時が経つのは早いもので、今年も半分が過ぎようとしています。6月は梅雨入りや夏至がありますが、6月10日は時の記念日でした。時の記念日は天智天皇(671)がこの日に初めて水時計を作ったことにより設けられたそうです。

歳をとるごとに時間の経過が早くなると言われています。ある説によると、5歳児の1年は人生の5分の1の時間ですが、50歳では50分の1であり10倍早く時間が経過するそうです。小学校の6年間と医学部

の6年間、現在の6年間、皆さまはいかがでしょう。

当院ではこの4月に新しく2名の整形外科医師を迎え、新しい体制で診療を行っています。今回は新任医師の股関節外科を得意とする和田医師の執筆と期待の若手大山医師の紹介をさせていただきます。また当院の特徴である手外科を支えてくれている作業療法士の紹介もさせていただきます。整形外科医が1名増えましたので、今年の後半もよろしくお願いします。リハビリテーション科部長 野内隆治

今号のトピック

当院における人工股関節全置換術

整形外科医師 和田大志



背景

発育性股関節形成不全や大腿骨頭壊死症、外傷などが原因で破壊された股関節は、保存加療が困難で数年以内に手術に至ることが多い疾患です。疼痛や可動域制限は患者さんの日常生活上を制限することになり、さらに治療が遅れると腰椎や膝関節などにも障害をきたすことになります。近年、人工関節の耐久性向上に伴い、手術を受ける患者さんが増加傾向にあります。人工股関節全置換術(THA :Total Hip Arthroplasty)は日本で年間5万件を超える標準的な手術となっています。一般的なTHAは、整形外科手術の中でも術後経過が非常に良好であり、特に壮年期では仕事や生活向上のために手術を受ける方が増えています。高齢者についても平均寿命の改善に伴い、より元気に生きるという健康寿命の面で手術が重要になります。

しかし日本では臼蓋形成不全に伴う変形が強い患者さんが多く、高度な手術手技が必要になることがあります。

当院での手術特徴

当院ではTHAを受ける患者さんが多く、手術は主に股関節専門の筑波大学医師2名、4月より当院常勤医1名が担当し(図1)、より高いレベルの治療を目指しています。術前に撮影されたCT画像から専用ソフトを用いて三次元プランニングを行っています(図2)。高度変形例や再置換術など難易度が高い手術でも、当院では良好な術後経過を得ること

図-1

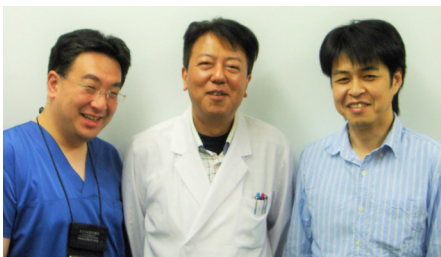


図-2

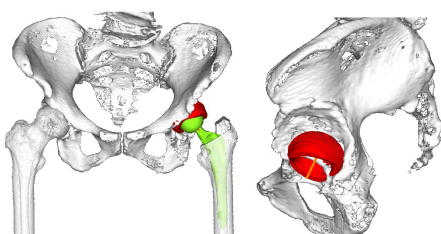


図-3

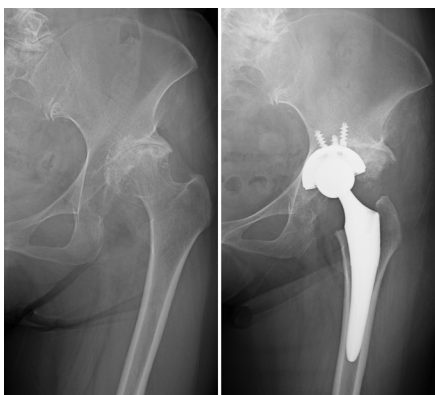
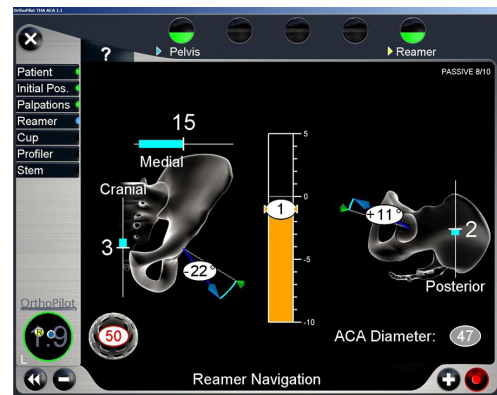


図-4



が可能です(図3)。

手術方法は、従来の方法よりも早期術後回復を目的として低侵襲アプローチで行っております。また患者さん個々によりますが「仰臥位での前外側アプローチ」も行っており、これは股関節の前外側から患部に到達し、筋肉を切らない筋非切離方法です。そのため術後早期の回復がより良好です。仰臥位で手術するため、麻酔侵襲も少なく済みます。

また、ナビゲーションシステムを導入し、より正確な手術手技を可能としています(図4)。手術は術者の経験値に依存することが大きく、術前計画に沿った正確な設置が困難なことがありました。そのため、早期に人工関節が緩んだり脱臼し、再手術となることがありました。今回ご紹介するナビゲーションは術前計画に沿ったカップの位置決定を補助するものであり、患者さんの個々の状況によりませんが使用可能です。

周術期管理

麻酔科の協力で、腰椎麻酔と硬膜外麻酔(鎮静下)を用いることが多く、十分な疼痛管理を行っています。また充実したリハビリスタッフと施設があり、術後も患者さんに御満足いただけるリハビリを行っています。2週間後で退院される方もいらっしゃると思いますが、十分にリハビリ成果を上げられるまで、ゆっくりと3-4週を目安にしています。

最後に

12年ぶりにこの4月から当院へ赴任いたしました。患者同士の知り合いや開業の先生方からの御紹介が多いことに驚きました。筑波大学で学んだことを生かしてより良い医療を行えるよう精進したいと存じます。

リハビリテーションセンター

作業療法の紹介



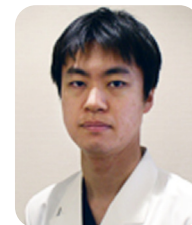
作業療法室では、入院された患者さんがご自宅へ帰られる際に必要な食事、排泄、更衣などの日常生活動作の訓練、上肢・手指を使った細かな動作の訓練を行います。更にスムーズに在宅生活を送っていただけるよう、環境面や社会資源の調整・紹介を行います。当院の作業療法は、手の外科疾患に対するハンドセラピーに力をいれております。

ハンドセラピーとは作業療法の一つの分野として位置づけられており、手の外科領域の疾患に対し、早期から整形外科医(手の外科医)と連携し、チーム医療にあたります。専門的な知識・技術のもとに治療を実施し、損傷された手の機能の回復を目指すとともに「生活する(できる)手(Useful hand)」として患者さんの日常生活を考慮しながら訓練を行います。前腕・上腕骨折、手指・手根骨骨折、腱・靭帯損傷、末梢神経障害、変形性関節症、切断などの対象疾患に対応し

ています。一人一人の患者さんに対して、適切な評価、目標設定、訓練を実施し、必要に応じ患者さんの身体に合った装具の作成およびチェックを行います。装具に関しては、疼痛軽減や生活しやすさ、また自宅での自主練習を目的に、患者さんの手に合わせてオーダーメイドで作成しています。日常生活で困難をきたしている動作を、可能な限り自身で行えるよう補助し日常生活をより快適に送ることができるよう目指しています。また必要な情報を整形外科医(手の外科医)に伝えていくこと、患者さんの自宅でのリハビリも含めて、日常生活・仕事での手をどのように使っていくか、回復段階、その後の予後も含めて具体的な提示を行います。当院では患者さんの状態や治療の方向性を共有できるよう毎週の整形外科カンファレンスに加え、隔週でハンドミーティングを行い医師と密に連携が図れるよう努めています。

整形外科医師
大山和生

はじめまして。2016年4月よりキッコーマン総合病院整形外科に勤務しております、大山和生と申します。私は茨城県ひたちなか市(旧勝田市)の生まれであり、大学時代を含めて人生のほとんどを茨城県で過ごしてきました。今回、千葉県野田市で働かせていただくことになり、地元から離れた新たな環境でのスタートを機に多くのことにチャレンジし、学び吸収しつつ、地域の医療に貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



専門分野：整形外科一般
筑波大学 2012 年卒業

編集後記

今回は、13年ぶりにキッコーマン総合病院に復帰した和田先生の人工股関節のご紹介がありました。職人気質の整形外科医から誰でもが一定程度の成績を残せるナビゲーションの技術を病院に導入してくれました。また、作業療法士の神原先生には手術後のハンドセラピーについて詳細に報告していただきました。患者さんの治療は手術だけでなく、いろんな職種が関係しております。どの部署も、益々自己研鑽を積んでもらい患者さんの治療に生じて欲しいと思います。今年も暑い夏がやってきました。利根川水系の水不足が深刻のようです。皆協力し合って素晴らしい1日を過ごしましょう。

副院長・整形外科部長 田中利和

kikkoman

キッコーマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
http://hospital.kikkoman.co.jp/